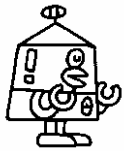


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
植物の花と実 / 理解シート

おしべとめしべは、どっちがうの



動物にたとえると、おしべはお父さん、めしべはお母さん
になり、めしべにできるたねは、たまごや赤ちゃんだよ。

めしべもおしべも、子孫を残すのに必要なもの

植物の体の中で、花の役目は、子孫(たね)を残すことです。動物も、自分たちのなかまがほろびてしまわないように、たまごや赤ちゃんを残します。

動物のたまごや赤ちゃんは、めすのたまご(卵)とおすの精子(父親の性質や体質を伝えるもの)が結びつく(受精という)とできます。

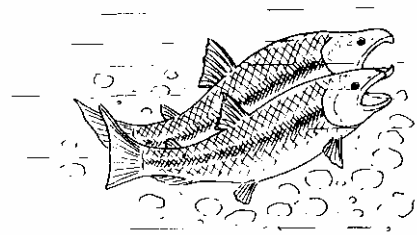
植物では、おしべから出る花粉は、動物のおすの精子と同じ役目をし、花粉がめしべの柱頭につく(受粉)のが、動物の受精と同じことになります。だから、花粉がつかなければ、めしべだけあっても実やたねはできません。

また、父親(精子)と母親(卵)からちがった性質や体質を伝えてもらうことから、病気やかんきょうの変化などに強い子孫が残っていきます。そのため、たいいていの植物は、同じ花の中にめしべとおしべがあっても、わざわざ同じ種類の別な株の花粉をもらって、たねができるしくみになっています(アサガオのように、1つの花の中で受粉する植物もあります)。

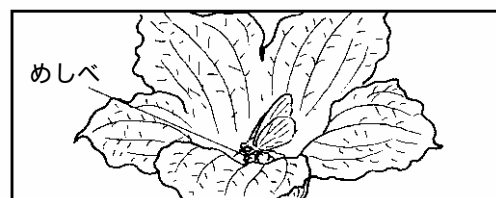
別な株の花粉を運ぶのは、こん虫や鳥、風

動けない植物は、花粉を別な株に運ぶのを、虫や風に助けてもらっています。

そのため花は、虫をよびよせられるように目立つ花びら、みつ、強いにおいなどをもち、めしべの柱頭は花粉がつきやすいように、べとべととしていることが多いです。



サケの産卵(オスがたまごに精子をかけ受精する)



カボチャのめ花(虫が花粉を運んできて受粉する)